



アジア太平洋化学工学連合会議で研究発表する札幌の高校生チーム

札幌で初開催となるアジア太平洋化学工学連合会議が23日、札幌市白石区の札幌コンベンションセンターで開かれ、市内の高校生が、国連の掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」をテーマに研究発表した。

化学工学会(東京)の主催でアジア・太平洋の13カ国・地域から参加。27日までの期間中、シンポジウム



## 札幌 高校生が英語で提案

### アジア太平洋連合会議

# 化学工学 貢献の方法は

などを行い、延べ約1600人が参加する。

23日は札幌開成中等教育学校の4チームと札幌日大高の1チームが「化学工学のSDGsへの貢献」をテーマにそれぞれ英語でスピー

チしたほか、研究内容をポスター発表した。

札幌成の富谷湖雪姫さん(16)、田辺日菜花さん(15)のチームは木材に含まれるリグニンに着目し、「札幌周辺に多い製紙工場の排水に含まれているリグニンをエネルギーに利用できるのでは」と提案。札幌日大高の今村美咲さん(17)は水を使わないバイオトイレに利用されるおがくずの消費効果などを発表した。

(相川康暁)

\*日本の他、13ヶ国・地域がAPCChEに加盟。APCChE2019には33の国と地域から参加。  
\*\*参加者数1800名以上、のべ数千名。